

コロナ渦での開催が2度目となり、今年も Web 開催されました。視聴する側はだいぶ慣れてきて、ビデオの ON/OFF やミュートの使用法、またチャットによる質問など浸透してきたように感じます。研修会直前に音声トラブルがあり、定刻を過ぎてからの開始となってしまいましたが、研修会開催中がトラブルなく進められてほっとしています。

今回の研修会の内容は大きく二つで、ひとつは昨年改定された「DRLs2020 の解説」です。改定直後の第二回放射線安全管理セミナーで発表された内容と同じでしたが、多くの方に視聴してもらうことで、自施設での線量評価や最適化に役立てていただけたことと思います。

内容の二つ目は金田悦子先生のご講演「体験から伝えたいがん患者のこころとからだ～リンパ浮腫を中心に～」です。以前にもオファーしたことがあったのですが、スケジュールが合わずに実現しませんでした。リンパ浮腫に関して放射線技師はなかなか深く知る機会がなかったですし、「体験から伝えたい」の題名に貴重なお話が伺える予感がしました。患者さんが治療のつらさで行き詰っている閉塞感や先行きが見通せないことの孤独に関して、今までは字面だけで覚えていましたが、コロナ渦が長引いていることによってそれらを想像できる自分になっていることに気づかされました（程度の違いは置いて・・・）。閉塞感や孤独、自暴自棄、失望、疲弊の状態の患者さんの隣に腰かけて傾聴することが、いたわりの声をかけることが、目線を合わせることが、気遣いのしぐさをすることが、患者さんの救いになるそうです。マンモグラフィに限らず攻撃的な患者さんは一定数いらっしゃると思います。その方たちがなぜ臨戦態勢なのか掘り下げて考えると、不安や孤独、恐怖を抱えているのではないかと感じることがあります。がん患者さんだけでなく、攻撃的な患者さんに対しても、心で対応することが求められているのだと思います。

今回の講演後に、金田先生は「話をする機会を与えてくれてありがとう」と感謝の気持ちを述べられていました。自身の体験を伝えることで、多くの医療従事者が心を揺さぶられることを期待しているのだと思います。私も襟を正して今後の業務や接遇に生かしていこうと思います。

記 高橋

